

少子高齢化と持続可能な社会

奈良教育大学教育学部3回生 藤本七彩

1. 単元名 少子高齢化と持続可能な社会

2. 単元の目標

・少子高齢化と医療の進歩の関係性及び諸問題についての議論や調査を通して持続可能な社会の実現を多面的に理解する。

(知識・技能)

・少子高齢化社会に関して,社会保障制度等の考え方や高齢者を取り巻く環境,延命治療などの医療の進歩に関する問題などの情報を活用して,調べた事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断して自分の考えを説明,論述する。

(思考・判断・表現)

・現代社会に生きる持続可能な社会の担い手としての自覚を持ち,特に人間の幸福と生命の公正に着目して人間の在り方を構想するように取り組む。

(主体的に取り組む態度)

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
①少子高齢化社会の現状と課題について理解している。 ②高齢化の理由の一つである医療の進歩について,その利点と問題点を多面的に理解している。	①持続可能な社会の実現に向けて少子高齢化が与える影響と,その課題点の解決策についてインターネットや文献,社説等の情報をもとに公正に思考・判断している。 ②少子高齢化の現状と延命治療などの医療の進歩に関する問題について批判的に考え,その論拠と共に説明,論述している。	①少子高齢化と持続可能な社会の実現について自分の人生観と共に意欲的に調べようとしている。 ②他の人の意見を聞き,人間の幸福と生命の公正について持続可能な社会の担い手として主体的に取り組んでいる。

4. 単元について

○教材について

本単元は高等学校学習指導要領公民編のうち,第2章,第1節「現代社会」の「2 内容とその扱い(3) 共に生きる社会を目指して 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して,現代社会に対する理解を深めさせるとともに,現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。」について取り扱ったもので,こ

の科目のまとめの学習として位置づける。本学が位置する大東市においては高齢者世代の増加が課題となっており、また高齢者世代と働く世代の居住地が明確に分かれ、若者と高齢者の触れ合いが少ないことも課題とされている。(参考:「大東市をとりまく状況」

<http://www.city.daito.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/40/2daitoshibftorimakuioukyou.pdf>

2019年1月31日閲覧)そのため、本学の位置する地域の課題として、少子高齢化社会について、特に「現役世代と将来世代の関係」に着目して考えることを設定した。近年の生命科学や科学技術の進展に伴い、従来の生命観のみでは対処することが難しい様々な課題が生じてきており、少子高齢化はその代表的なものである。2025年には高齢者を働き手2人で支えなければならないようになるという統計で示されているような働く世代の負担増加や社会保障費用の増加、高齢者の幸福追求など現代においては様々な課題があると考えられている。一方で高齢者が活躍できる環境を作り、働く世代との関係を相互的にしていくことで労働力の確保や医療費の抑制が可能であるという展望も考えられている。

そして少子高齢化社会を考えていくうえで特に高齢化の理由の一つである生命科学や科学技術の進展、特に延命治療の進展について取り扱う。延命治療とは、治療行為を行わなければ死に至るはずのものを、人工呼吸器や栄養・輸液管理などによって生きながらえさせるような治療であり、安楽死などの終末期医療での問題の一つとして考えられている。(参考:日本学術会議 臨床医学委員会終末期医療分科会、「対外報告 終末期医療のあり方についてー亜急性型の終末期についてー」<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/10/dl/s1027-12g.pdf> 2019年1月26日閲覧)

なお、本単元の参考文献として扱う『百年法・上』(山田宗樹、角川書店、2012)は不老不死の実現が可能になった日本を舞台に繰り広げられるSF小説である。第二次世界大戦終戦直後にアメリカからもたらされた「HAVI」という技術によって人間の身体は不老化し、自殺や事故死、殺人等を除いて死なない不老不死社会が実現した。一方で出生率の低下等によって国力が衰退する危険性があるとして「HAVI」を受けて100年経過したものは生存権をはじめとする基本的人権を放棄する、具体的に言えば「安楽死」を選択しなければならないという「百年法」が定められた。そして本書は「百年法」の成立から最初の100年を迎え、強制的な死への反発や官僚の葛藤、テロリストによる理想郷の追求といった人々の生命と人間の幸福観をめぐる物語である。この作品はSF小説であるが、新しい法制の施行の際の国民の反発や世論の動き、政界での権力争いやテロリストの台頭など、ニュースや新聞等で見られるような現実的な描写が特徴的である。また舞台が日本であることから登場人物の気持ちや組織も親しみやすいものとなっており、さらに少子高齢化が問題となっている今日において出生率の低下や生産消費の低下などの本書において問題とされていることについても理解しやすく、読者が感情移入して考えやすい物語である。

○生徒観
(省略)

○指導について

本単元は少子高齢化社会の課題と延命治療を考えることを通して、持続可能な社会の実現に向けてこれからの社会の担い手として様々な論拠をもとに少子高齢化問題の解決策を考え、自分の人生観とともに説明、論述するという構成で進めていく。

まず少子高齢化に関する統計資料やグラフ化・図式化された資料を読んで、少子高齢化社会の現状と課題について理解する。例えば将来の働く世代の社会保障等の負担が増え、経済の成長が鈍るほか、若い世代の人生設計が限定されるなど、経済や幸福追求などにおいて世代間の公正が損なわれてしまうことである。

次に高齢化の理由の一つである延命治療について理解しながら、生命の尊厳と有限性について議論しながら「長生きをすれば幸せになれる」ということを批判的に考えていく。また高齢者が活躍できる環境づくりについての案を考えていくことで、高齢者の幸福追求や社会保障の世代内の公正も考える必要があることを理解する。

最後に今後より発展していく延命治療などの医療の進歩と少子高齢化の進む社会の中で、自分たちができることを中心に持続可能な社会づくりの主体として考えられる手立てをレポートにまとめて表現する。そのレポート作成にあたって授業内では他の教員や生徒の家族といった異年齢間交流と、延命治療の発展段階である不老不死技術を扱った『百年法』の理解と考察を行う。

これらの活動によって自分の生き方や幸福観、人間の生命といった普段意識しづらく、また交流しづらい諸課題を意識して行動するようになってほしい。

5. ESDとの関連

○学習を通して主に養いたいESDの視点

- ・少子高齢化社会を考えていく中で、本人や親族、将来の世代といった様々な立場の人がつながりあって幸福と生命を構成していることを理解する。【相互性】
- ・生命は有限なものであり、世代間の交流や文化の伝承、技術等の発展を通して人間の社会は循環しているということを考える。【有限性・循環性】
- ・人間の長寿化に伴って世代間・世代内の格差が生じると考え、公平な社会を実現する思いをはぐくむ。【公平性】

○学習を通して主に育てたいESDの資質・能力

- ①批判的に考える力:「長生きをすれば幸せになれる」という考え方を批判的に考える。
- ③多面的・総合的に考える力:延命治療について現在行われている処置や少子高齢化社会における影響などを理解し、生命について多面的・総合的に判断・思考・表現する。

○ESDで育てたい価値観

- ③人権・文化の尊重:あらゆる世代・地域の文化を尊重し、人権を守ることにについて考える。

④幸福感の重視：人間の幸福と生命について考える。

○貢献できるSDGs

3:あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活の実現について考える。

4:生涯を通して学び,質の高い教育と人生のための努力をする。

12:人間の幸福と生命の追求に関して持続可能な生産消費形態を考える。

6. 学習活動の概要

1. 学習展開の概要 (全3時間)

主な学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1. 少子高齢化に関する統計資料やグラフ化・図式化された資料を読んで,クイズに挑戦する。</p> <p>【クイズの内容】</p> <p>問1:1990年には高齢者1人を5.8人で支える必要があった。では2025年では高齢者1人に対して何人で支える必要があるだろうか(ヒント:2010年では高齢者1人に対して2.8人であった。)</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.0人 ・1.0下回っているととても怖い ・2.0くらい <p>問2:2015年現在では日本の人口は約1億2000万人であるが,2050年には約9700万人にまで減少するといわれている。この場合,日本国内で無人となる地域は国土の何割程度であるか。①1割未満 ②3割 ③6割(2014年国土交通省による試算より)</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3割くらいにしておいてほしい ・③だとこの学校がなくなるかもしれない 	<p>○クイズの答えはそれぞれ2.0人と③6割である。クイズのヒントとしてパワーポイントを用いてグラフや図式,地図などを示しながら,他の年度等と比較して推測できるようにする。</p> <p>○将来の働く世代の負担が増え,経済の成長が鈍るほか,若い世代の人生設計が限定されるなど,経済や幸福追求などにおいて世代間の公正が損なわれてしまうことが課題となることに気づかせる。</p>	ウ①
<p>2. 少子高齢化社会の現状と課題について</p>	<p>○クイズの中で考えたことの</p>	ア①

<p>理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何となく大変だと思っていたけどまさかこの高校にも関係していたとは……。 ・少子高齢化は日本全体の問題だなあ。 ・私たちに何かできることはないだろうか。 	<p>他,教科書等にある少子高齢化に関する統計資料やグラフ化・図式化された資料を読み解かせ,少子高齢化社会の現状と課題について理解させる。</p> <p>○本学の位置する大東市においても課題となっていることを理解させ,これまでに学習した少子高齢化の課題についてより考察を深めさせる。</p>	<p>イ①</p>
<p>3. 高齢化の理由の一つである医療の進歩(延命治療)について理解し,生命の尊厳と有限性について「長生きすると幸せになる」ということを議論しながら批判的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったらいろいろされるのは嫌だ。 ・いざとなったらもっと生きたいと思うかもしれない。 ・不老不死になれば楽なのに…… <p>4. 高齢者が活躍できる環境づくりについての案を考え,高齢者の幸福追求や社会保障の世代内の公正も考える必要があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで高齢者の人は助けてあげべきだと思ったけど,こんな方法もあるのか。 ・年をとっても病気になっても幸せでいたいと思うのは同じだ。 	<p>○医療の進歩と延命治療の定義を説明したうえで,前時の少子高齢化社会の現状などと関連させて議論させる。その際,「長生きすると幸せになる」ということに反対する側と賛成する側の発表時間を均等にします。</p> <p>○株式会社いもどりの取り組みを参考に考えさせる。</p>	<p>ア② ウ②</p>
<p>5. 『百年法』から抜粋された文章を読み,この百年法が実際に施行されるときに利点と問題点について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いままでいられる。 ・健康な体のままなので旅行やスポーツなど,好きなことがたくさんできる。 ・自分で死ぬ時を決めたい。 	<p>○延命治療の進展によって不老不死が実現した際のシミュレーションとして考えさせる。</p>	<p>ウ①</p>

<p>・先輩・後輩の区別がつかない。</p> <p>6. 少子高齢化社会と延命治療について教員の意見を掲載した資料とともに保護者や祖父母などの親族の意見を理解する。</p> <p>・自分の親は何というだろうか。</p> <p>・先生の年齢によってやっぱり違う。</p> <p>・家族を大切にしたいという気持ちは僕にはなかったな。</p>	<p>○教科・年齢等できるだけ多くの教員から意見を伺い、自分の意見も述べておく。その際、参考にした文献等があればそれも明記する。</p>	<p>ウ②</p>
<p>7. これまでの授業での議論を整理したうえで「少子高齢化は社会の持続可能性にどのような影響を及ぼすかを論述しなさい。またこの単元で学んだことや自分で調べたことをもとに、持続可能な社会の担い手としてのあなたの今後の人生設計を述べなさい。」というテーマのレポートを作成する。</p>	<p>○締め切りは本単元の範囲を含む定期考査までとし、総合的な学習の時間で扱うものとする。参考文献の書き方やレポートの作成方法等はあらかじめプリント等にして明示しておく。</p>	<p>イ① イ②</p>

7. 参考文献

- ・『フォーラム 現代社会 2013』東京法令出版.
- ・『政治・経済資料 2015』東京法令出版.
- ・『アプローチ 倫理資料』東京法令出版.
- ・山田宗樹『百年法・上』(2012), 角川書店.
- ・「大東市をとりまく状況」

<http://www.city.daito.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/40/2daitoshibftorimakuioukyou.pdf> 2019年1月30日閲覧.

・日本学術会議 臨床医学委員会終末期医療分科会, 「対外報告 終末期医療のあり方について - 亜急性型の終末期について -」 <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/10/dl/s1027-12g.pdf> 2019年1月26日閲覧.

・株式会社 いろどり 「街づくり・観光・農業体験等～葉っぱを商品に 高齢者が生き生きと働く町～」 http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/sbcb/data55sen/p042_043.pdf 2019年1月27日閲覧.

・株式会社いろどり 「いろどりストーリー」 https://www.irodori.co.jp/asp/nwsitem.asp?nw_id=2

2019年1月27日閲覧.

- ・「日本の6割の地域が無人に? 2050年、日本の人口は9700万人 国交省試算」

https://www.huffingtonpost.jp/2014/03/29/population-of-japan_n_5053891.html

2019年1月28日閲覧.

8. レポート例

少子高齢化は今まで何となく大変だと思っていただけだったが、私たちにも高齢者にも悪い影響があると分かった。特に日本の6割に人がいないと、通勤や通学がしんどいと思うし、戦争が起きたら大変になると思う。だから私はまずたくさん子どもを産もうと思う。それができなかつたら子どもを産んだ人の代わりにたくさん働いたり、友だちの子どものお世話をしようと思う。それから私のおばあちゃんや近所に住む高齢者の人にも優しくして、私の子どもの面倒を見てもらったり、おもちゃとかを作ってもらったりして一緒に幸せに暮らせるようにする。

少子高齢化は日本の経済や将来に大きな影響を与える。例えば高齢者の支援のための費用や時間、職業が増えて僕たちのような将来の世代が大変な思いをする。しかし高齢者の人も働いたり幸せになったり、人の役に立ちたいと考えていることを知り、僕は少子高齢化が悪い影響を与えているのではなく、人々の考え方の問題だと思うようになった。みんなが幸せだと思えば社会なら少子高齢化だとしても解決できる方法があつて実現できると考えるからだ。だから僕はまず自分が幸せに生きるようにしようと思う。自分がやりたいことだけでなく、自分ができる、才能のあることも積極的にしているどりのような会社を設立したり、ボランティア活動をしたりするための時間とお金を増やそうと考えたからだ。そして社会のことを敏感にキャッチしてその時のニーズに合わせて活動できる謙虚さと好奇心、勉強に対する意欲を一生続けて持っていようと思う。少子高齢化が収まっても僕は誰かに必要とされていて、新しいことをするために誰かと何かを必要としているような人間であろうと思う。

少子高齢化は特に社会を持続可能にするための障害になりうる。例えば少ない生産人数で高齢者の人を支えれば支えるほど将来の世代は疲弊するばかりで、ますます少子化も進んでしまう。これは少子高齢化の中の悪循環であるのでまずは将来の世代の負担をできる限り減らすことが必要だと考える。そのためにはまず子育て支援をして共働きやシングルマザーといった様々な人が安心して子育てできる環境が必要である。私は現在幼稚園か小学校の先生を目指しているが、少子化の話などを調べるうちに、企業の託児所で働くのもよいと思うようになった。数はまだまだ少ないが、企業の託児所の方が保護者の人にとって身近でお迎えの時間なども少ないので私の理想通りだと考えたためである。また、資料集の中に社会保障のタイプが書かれていたが、私はそのうちのイギリス・北欧型のように子育てのための基礎年金のようなものをつくれれば、幅広い世帯の人が子育てしやすくなるだろうと考えた。金銭的な負担は増えてしまうが、将来になってその子どもたちが私たちの世代に恩返し

してくれることを想像すればおそらく世の中の人々は賛成するはずだろうと考えた。